

視察等報告書

三次市議会議長 様

報告者 藤岡 一弘

下記の通り、視察が終了したので報告致します。

視察議員	藤岡 一弘
期間	令和2年 8月 20日
視察先	川西連合自治会
視察用務	自治連合会や地域の方々のまちづくりについて
視察先対応者	自治連会長、事務局長
概要 及び 所感	<p>○ 川西地区の概況 川西地区面積 42.5 km²、人口 1035 人(令和元年 5 月時点)、川西小学校児童数 36 名、高齢化率 49.7%。</p> <p>○ まめな川西いつわの里づくりビジョンについて</p> <p>1, 里づくりの2大柱</p> <p>①都市農村交流施設「ほしはら山のがっこう」整備と運営組織確率→NPO法人化、グリーンツーリズム、定住促進、空き家調査。</p> <p>②地域生活拠点づくり→川西農村丸ごとミュージアム(後の「川西郷の駅」)</p> <p>2, 特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビジョンのイラスト化と具体的一覧表の地図落とし ・大風呂敷に小風呂敷(実践事業シート) ・ビジョンの推進姿勢と方策、調査・研究・トライの提唱 <p>○ ①の柱について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市農村交流拠点づくりとして、「ほしはら山の学校」を整備し、川西グリーンツーリズム夢マップを作成する。 ・川西診療所と川西小規模多機能施設(在宅介護支援)の一体化運営を行う。 ・交流体験協議会を立ち上げ、都市農村交流(交流拠点整備)と定住促進(空き家調査)を進めた。 <p>○ ②の柱について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川西郷の駅建設への動き(2017年7月21日オープン) 2012年6月 拠点づくり専任組織「川西郷の駅づくり推進委員会」を設置 研究会・ワークショップ・住民アンケート調査・先進地視察など具体的検討 2013年 平成25年度国土交通省「集落地域における小さな拠点づくりモニター調査地域」に選定→土地利用計画図及び施設計画図のランドデザインを決定。 2014年5月 国土交通省「小さな拠点づくり全国フォーラム」で住民自治組織の取り組み事例として報告。また、(仮称)株式会社 川西郷の駅設立発起人会設置。

2015年 農水省農村集落活性化支援事業採択 同実施組織「川西地区郷づくり協議会」を設置し、具体的な運営策の検討を行う。

2017年7月21日 川西郷の駅いつわの里オープン。

○ 川西地区のまちづくりについて

①ビジョンの作成について

たとえ絵にかいた餅であっても、あったほうが向く方向が定まる。また、それを実現しようとする仕組みとしてPDCAサイクルの確認を行う。

②住民参加について

参加者は老若男女のバランスを重視し、「私は関わった」と感じる人が増えるようにする。

○ 視察の所感

・川西地区の皆さんが自治組織で大切にしていることは以下の4つに感じた。

①活動の基本は人権尊重

②参加主体は個人(すべて個人として尊重される)

③役員は縦関係でなく、役割分担の横関係

マネージャー(経営・管理運営者/統括者)

コーディネータ(調整者)

オーガナイザー(組織者)

「この指たかれ」の人起こし…リーダー(先導者)は活動の中で育つ。

④公平・公正・民主主義を守るために

特定の営利、宗教、政党活動は避けるべきである「わすがね鎌」(公民情報公開は基本の基)

視察等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 徳岡真紀

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

	会派代表者		経理責任者	
視 察 議 員	徳岡 真紀			
期 間	2020年 8月 20日 ~ 2020年 8月 20日			
視 察 先	川西自治連合会			
視 察 用 務	自治連合会の取り組みを学ぶ			
視察先対応者	自治連会長、事務局長			
概要および所見	<p>川西地区は人口1085人、475世帯、常会が47、単位自治会が5つある地域で、属地型組織、目的型組織、属性型組織が機能している複合多機能型組織である。自治連の取り組みで特記すべきは、委員会や実行委員会が老若男女巻き込んだ形でその都度形成される力があることである。</p> <p>ビジョンづくりに関しては、まめな川西いつわの里づくり協議会が中心となり、また、里づくり委員会ではビジョンに基づいて具体的な活動内容を取り決め活動をされ、さらに都市農村交流拠点づくりに関しては、ビジョンで掲げた地域拠点形成等の構想をもとに、「川西地区拠点整備検討」に関する研究会やワークショップ、視察などを行われた。</p> <p>また、同時に国土交通省の集落地域における小さな拠点づくりモニター調査地域に選定され、川西郷の駅いつわの里をオープンされるという大変精力的な活用を住民主体で行われている。</p> <p>現在も、地域内交通体系実証実験、農山漁村振興交付金による農泊推進事業、農村集落活性化支援事業、国土交通省スマートシティ先行モデル地区としてデンソーや中国電力、マツダ、NTTなどと協働で住民がICTを活用して便利に生活できるよう、川西地区独自に取り組まれている。</p> <p>すべてにおいて、地域力を活かすことに主眼をおかれ、ワークショップやアンケートなど随時住民が関わることでできるまちづくりが行われていることはこれからのまちづくりのトップランナー的な手法であると考え。少子高齢化の大きな課題を抱えながらも、できることを住民主体で取り組まれている川西地区は、移住者も増え、まだまだ可能性を感じる場所である。</p>			

視察等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 増田 誠宏

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

	会派代表者	掛田勝彦	経理責任者	増田誠宏
視 察 議 員	増田誠宏			
期 間	令和2年8月20日（木）			
視 察 先	三次市 川西自治連合会			
視 察 用 務	地域づくりのポイントについて研修する			
視察先対応者	川西自治連合会 会長・事務局長			
概要及び所見	<p>研修に先立ち、川西地区の現状・歴史、川西自治連合会の概要、まめな川西いつわの里づくり委員会について説明を受けた。</p> <p>地域づくりのポイントについて 地域のことを考え話し合う仕組みを構築し、老若男女バランスよく参加し「私は関わった」と感じる人がどれだけいるかが勝負である。その中で未来を語るビジョンを描き、地域の方向性を定める意味でも絵にかいた餅でもないよりはましある。魅力ある地域は、魅力ある地域にしようとチャレンジしているのが魅力であり、このような先進的な取り組みを広げていく必要がある。</p> <p>住民自治組織を取り巻く現状について 住民自治組織は地域の連帯・防災など重要性と任務は拡大している。一方、絶対的人口の減少や労働環境のゆとりの変化によって、ボランティア的な活動参加には厳しい現状がある。不参加の自由、参加機関の確保を活動の原則にしつつ、特定のテーマのグループづくりをしてやりたい人がやりたいことをして元気な組織づくりをしていく必要がある。また、自立した事務局の確立が大切であり、本市においてもヒト・モノ・金をふくめて、この確保と行動の支援や保障をする必要がある。</p>			

視察等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 山田 真一郎



下記のとおり、視察が終了したので報告します。

	会派代表者	掛田勝彦	経理責任者	増田誠宏
視 察 議 員	山田 真一郎			
期 間	令和2年8月6日（木）			
視 察 先	川西自治連合会			
視 察 用 務	里づくりビジョン いつわでつくる田舎暮らしが楽しい里づくり			
視察先対応者	川西自治連合会 会長			
概要及び所見	<p>地域づくりのポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域のことを考え話し合う仕組み ・ 老若男女バランスよく参加 ・ 未来を語るビジョン ・ 魅力ある地域 ・ 新しい時代に対応したコミュニティの結び直し ・ まちづくりの組織について ・ 住民自治でつくる川西のまちづくり ・ 川西コミュニティセンターと川西自治連合会 ・ 財源について ・ 人口の動き ・ 人口減少と高齢化の現実 ・ 里づくり委員会 ・ 都市農村交流拠点づくり ・ 川西小規模多機能施設 ・ 川西郷の駅建設への動きと概要 			

- ・地域内交通
- ・地域力を活かしたまちづくり
- ・住民自治組織を取り巻く現状

まめな川西 いつわの里

- ・位置と地勢
- ・人口と世帯数の状況
- ・里づくりビジョン
- ・里づくりの基本目標
- ・里づくり活動の基本姿勢
- ・里づくりの将来像
- ・重点施設・地域生活拠点『川西郷の駅』
- ・第2次『まめな川西いつわの里づくりビジョン』策定にあたって

《考察》

人口減少に対する考え方や対策について非常に勉強になりました。特に時代の変化により、生活様式や人との関わり方が変わっており、その中でどのように町おこしを行うか、どのように人を集めて活動に参加してもらうか、意識付けのところがらしっかり協議をさせておき、今後は川西地域に留まらずより広い範囲で広めるべき活動だと思えます。